

吉田重信展

ヒカリノミチ

2024

自然光にひそむ色から咲く虹
山形県山形市山形区山形1-1-1
山形県山形市山形区山形1-1-1

2024年

5月15日〈水〉

7月7日〈日〉

9時～21時 月曜休館

観覧無料

「虹ヲアツメル 2023.6.17 9:28」(新潟市福島潟)

砂丘館

(旧日本銀行新潟支店長役宅) 新潟市中央区西大畑町5218-1

●主催: 認定NPO法人新潟絵屋 ●共催: 新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体

旧日本銀行新潟支店長役宅

吉田重信 ヒカリノミチ

光を直接見ることはできない—そのことを知ったときはもちろん、今でも少し混乱する。私たちは、光が当たった物質を見るのであって、光そのものを見ているのではない。そもそも光は、携帯電話の電波と同じ電磁波であり、可視光線は、その中でも波長のごくごく狭い領域にすぎないのだ。さらに光は粒子であり波であると物理学はいう。理屈は通っていても、およそ腑に落ちなかった。

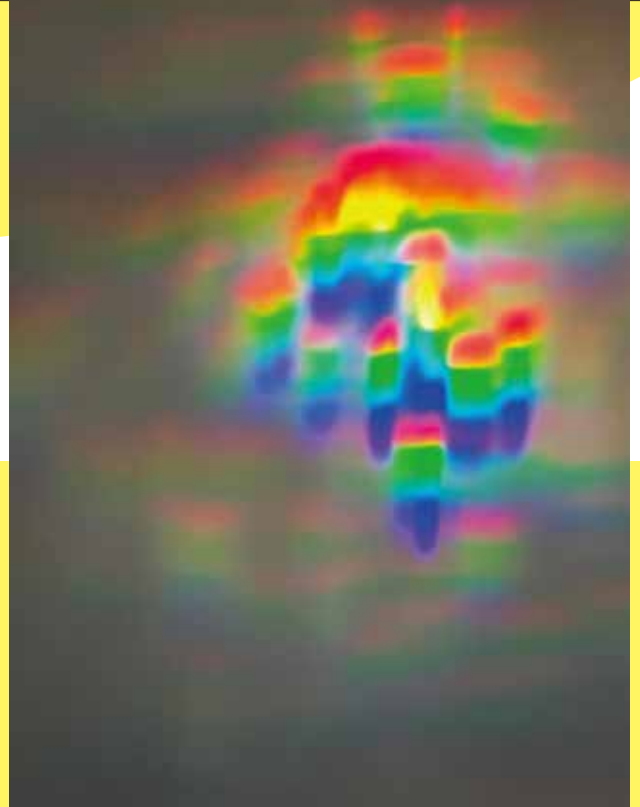
吉田の作品と光のことを考えると、筆者は四十年前に本人から聞いたことを思い出す。百号ほどの画面に、スクラップ状態の自動車ボディが、鎖や鉄棒で縛りつけられた作品。吉田によれば、ただの自動車ではなく、事故車であることが大事なのだという。それを知って、その作品が、技術や構図といった美術的な観点を超えて、異質に感じられた理由が解った。吉田は表現のコアに、物を浮かび上がらせるが、それ自体は見えないものを据えていたのだ。当時は、霊？と考えていたのだが、もっと普遍的なもの—光だったことが、その後の作品群で明らかになっていく。

虫眼鏡で紙を焼く。光ファイバーを使った集光装置で太陽光を暗室に持ち込む。プリズムで分光した光景を記録する。鏡によって水をプリズムに変える。窓ガラスにカラーシートを貼り、室内を透過光で満たす。吉田の歩みは、メディアとしての光を表現するものになった。電波が振動して音を届けるように、メディアは物を情報に変化させる。光も存在としては粒子、運動すれば波になる、ということなのだ。その表現過程で吉田自身が、光を媒介するメディアとして逆転したようで、子どもの靴のインスタレーションや漆、絵の具を重ねた作品でさえ、光の問題として見えてくる。

光は、その行く手をさえぎるものが表れない限り、私たちには宇宙の暗黒が続くように感じられる。逆に常に光が当たって物が見えているとき、光のはたらきを見逃しがちになる。水をプリズムに変えて、分光された虹を樹木に投射する作品は、その虚をついたように、光と水と樹木が出会うことが、得難い機縁だったことに気づかせてくれた。水の波が、光の波を増幅して、樹木を恩寵のように照らし出すのだ。それは光の粒子として画面に定着されている。

今回、吉田のヒカリノミチで砂丘館(旧日本銀行新潟支店長役宅)が照らし出される。そこにコンデンサーのように貯められてきた九十年分の光が、吉田の作品と万華鏡のように干渉しあう場になるだろう。

小泉晋弥(茨城県天心記念五浦美術館館長)



「虹ヲアツメル」2023.5.13 5:59 (新潟市太夫浜)

吉田重信(よしだしげのふ) / 1980年代後半から活動を始める。1991年いわき市立美術館で自然光の作品「Infinite Light」を発表後、水戸芸術館・宇都宮美術館・広島現代美術館・川村記念美術館・目黒区美術館・岩手県立美術館・東京都写真美術館・茨城天心記念美術館・喜多方市美術館・Hayward Gallery・IKON Gallery・Grundy art Gallery Blakpool(イギリス)、Museum on the SEAM(イスラエル)等にて作品を発表。1995年から自然光を使った虹のワークショップ「虹ヲアツメル・虹ノカンサツ」を国内外で開催。2010年、子供の靴800足を使い、世界各地の紛争や社会的問題をテーマにした「心ノ虹」を楓ギャラリー(大阪)で展示。2011年3月11日に起きた東日本大震災直後の5月には、立体ギャラリー射手座(京都)にて、犠牲者への祈りの菊1000本を使った作品「臨在の海」を発表する。2015年、戦後70年を迎える旧日本銀行広島支店を会場に開催された「存在と記憶Hiroshima 2016」(広島)や「山形ビエンナーレ2022」に参加。枚方市民ギャラリー(枚方市平和の日記念事業企画)にて個展「光の鳥」(大阪 2015) その他、個展及びグループ展を多数開催している。

出品作品

- 「Bio-Morph 2024」自然光の作品(素材/自然光 太陽光光システム)
 - 「Infinite Light 2024」自然光の作品(素材/自然光 カットシート)
 - 「虹ヲアツメル 2024」写真7点(素材/自然光 水 風 鏡 容器)
 - 「光跡」画帳の作品3点(素材/太陽光 レンズ 紙)
 - 「虹ヲアツメル 2024」映像作品* 2点(素材/自然現象 プリズム) 以上14点
- *新潟市の水辺などで撮影された画像で構成される新作

ギャラリートーク1 5|18(土) 14:00-15:30

「ヒカリノミチ2024を歩く」

吉田重信/小泉晋弥(茨城県天心記念五浦美術館館長)
定員30名/参加料1,000円/要申込

ワークショップ 6|29(土) 10:00-12:00

「虹ヲアツメル・虹ノカンサツ」

定員15名/参加料1,000円/要申込
※雨天の場合は中止

〈お申込は砂丘館へ〉

受付開始(メール・FAXも) 5/9(木)9:00
TEL.FAX. 025 (222) 2676
yoyaku@bz04.plala.or.jp

ギャラリートーク2 6|29(土) 14:00-15:30

「新潟の光・福島之光」

吉田重信/大倉宏(砂丘館館長)
定員30名/参加料500円/要申込

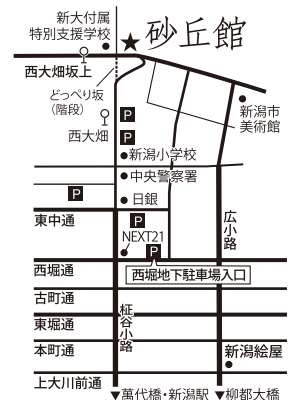
砂丘館

旧日本銀行新潟支店長役宅

新潟市中央区西大畑町5218-1 tel.025-222-2676
sakyukan@bz03.plala.or.jp http://www.sakyukan.jp/
新潟駅より浜浦町線C2系統 又は 観光循環バス「西大畑坂上」下車徒歩1分

砂丘館には駐車場がありません。周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用ください。
新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は駐車券提示にて1時間分の無料券を差し上げます。

(指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体)



〈私たちは砂丘館を応援しています〉